

NPO法人
こまえにほんごしえん・
日本語スクール

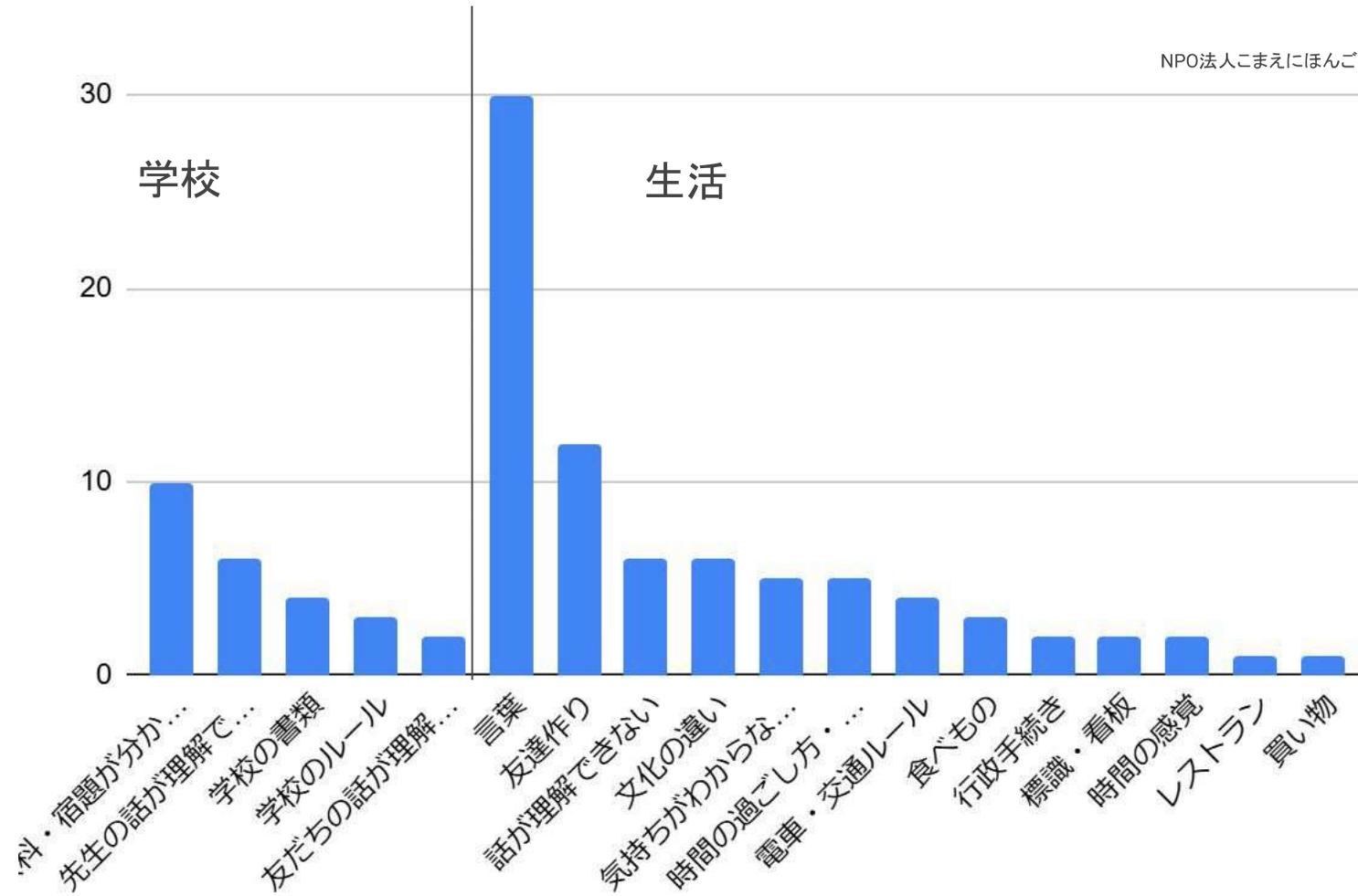
20241112 人権擁護会議

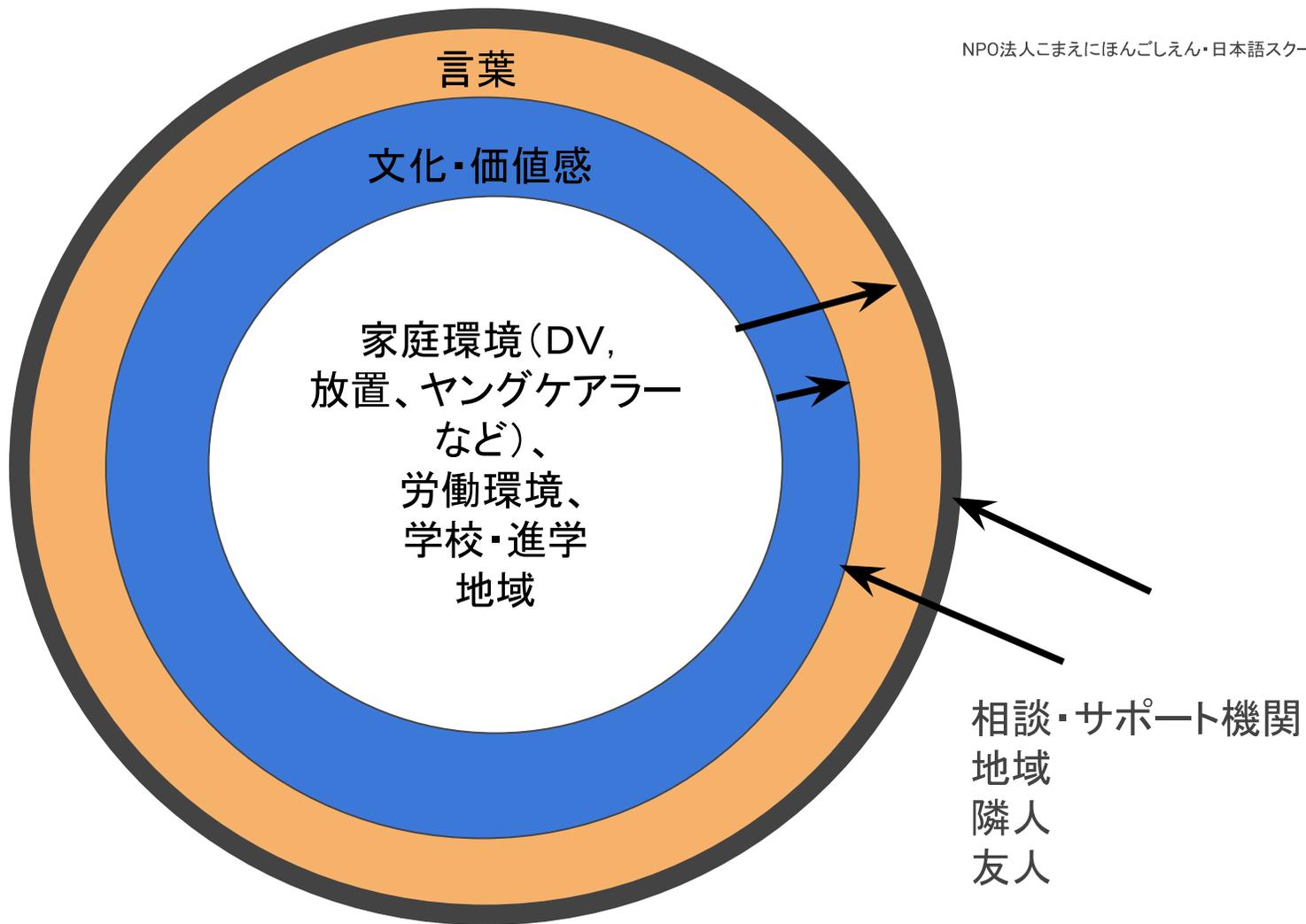
- やさしい日本語のレベル感
→ 中・上級の日本語だった
- 話せる、が、読めない書けない
→ 言いたいことはあるが、文字で伝えられない
- 地域(狛江、日本)は助けてくれる場所と感じているか

学校	教科・宿題が分からない	10
	先生の話が理解できない	6
	学校の書類	4
	学校のルール	3
	友だちの話が理解できない	2
生活	言葉	30
	友達作り	12
	話が理解できない	6
	文化の違い	6
	気持ちがわからない、伝わらない	5
	時間の過ごし方・家族	5
	電車・交通ルール	4
	食べもの	3
	行政手続き	2
	標識・看板	2
	時間の感覚	2
	レストラン	1
	買い物	1
	不明	3

6/9開催公開講座 「やさしい日本語実践講座」より

・外国人6名+海外在住経験のある日本人による複数回答





差別か、差別ではないか

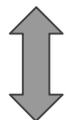
NPO法人こまえにほんごしえん・日本語スクール

- ・目をそらす、距離を取られる、どこの人という顔をされる
- ・外国人というだけで、賃貸の審査が厳しい
- ・日本語も話せる、文化も理解している、または日本生まれ日本育ちだが、日本語が上手ですね、すごいですねと言われる
- ・○○人と連呼
- ・日本なんだから、日本のルール、習慣に従え
- ・日本語が分からない本人の目も前で、文盲だという言葉
- ・知能が低いという理由で支援学級・支援学校へ入れる
- ・子どもが日本語を十分に習得する時間、機会が保証されていない
- ・労働基準法が守られていないが、日本に長くいる同国人のボスに逆らえない
- ・言葉が分からないから必要な制度が使えない、正しい情報が得られない

権利

暮らすのに不自由しない＋安心して暮らすための多言語情報
日本語教育の機会

相談機関の設置



見えない存在から、見える存在へ

課題の洗い出しと周知



住民の意識・行動の変化につながる

「外国人にやさしいまち」とはなんですか？

- 「外国人」と「日本人」の区別
いつまで「外国」人なのか
日本を知らない日本国籍の人
- やさしいまちは、日本人が整え与えるもの？
当事者は誰か
- 「外国人にとってやさしいまち」は誰のためのものか